M-NET接続用アダプタ(リプレースインバータ用)据付説明書

PAC-SG68MA

安全のために必ず守ること

●据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行なってください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

●据付工事完了後、試運転を行ない異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法、お手入れの仕方等を説明してください。
また、この据付工事説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管していただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくように依頼してください。

⚠警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
●お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行なう。
●据付けに不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

改造は絶対にしない。
●修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。
改造したり修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

お客様自身で移動・再据付けはしない。
●据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。お買い上げの販売店または専門業者にご依頼ください。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災等の原因になります。

室内外ユニットの端子盤カバー(パネル)を確実に取付ける。
●端子盤カバー(パネル)取付けに不備があると、ほこり・水等により、火災・感電の原因になります。

電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路としかつ定格の電圧・ブレーカを使用する。
●電気回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

電気工事をする前に

⚠注意

設置場所(水気のある場所等)によっては漏電遮断器を取付ける。
●漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。

電源配線は、電流容量に合った規格品の電線を使用すること。
●漏電や発熱・火災の原因になることがあります。

電源配線は張力が掛からないように配線工事をする。
●断線したり、発熱・火災の原因になることがあります。

アース工事を行なう。
●アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

正しい容量のヒューズを使用する。
●大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や火災の原因となることがあります。

試運転をする前に

⚠注意

運転を開始する12時間以上前に電源を入れる。
●電源を入れてすぐ運転開始すると、故障の原因になることがあります。
シーズン中は電源を切らないでください。

パネルやガードを外した状態で運転をしない。
●機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

エアフィルタを外したまま運転をしない。
●内部にゴミが詰まり、故障の原因になることがあります。

濡れた手でスイッチを操作しない。
●感電の原因になることがあります。

運転中の冷媒配管に素手で触れない。
●運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷ややけどになる恐れがあります。

運転停止後、すぐに電源を切らない。
●必ず5分以上待ってください。
水濡れや故障の原因になることがあります。

M-NET伝送線の配線について

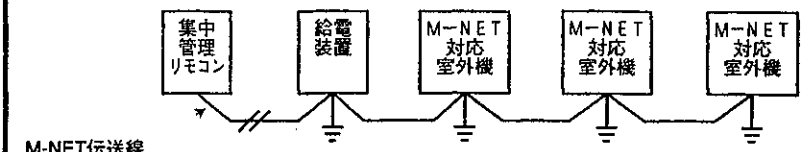
⚠ 注意

M-NET伝送線のシールド線は、接続する機器の
いずれか1カ所に限りアース線を接続してください。

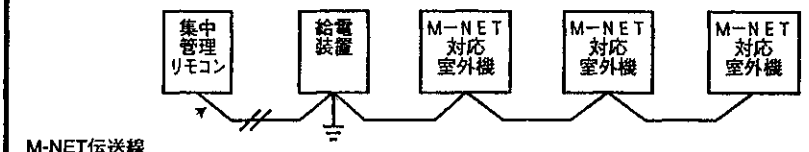
●ノイズに弱くなり通信異常になることがあります。

室外機デジタル表示LED「Ed」エラー
集中管理リモコンに「0403」エラー

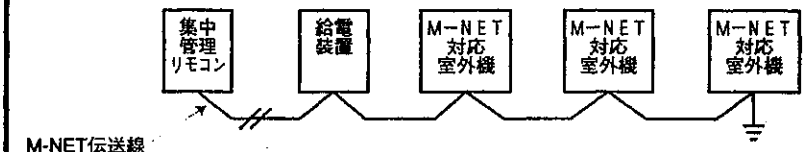
×悪い例（シールド線の多点アース）



○良い例１（シールド線の１点アース）



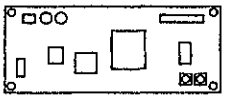
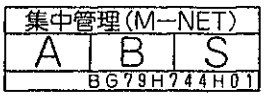
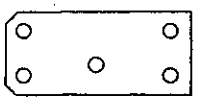
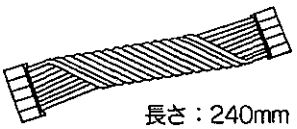
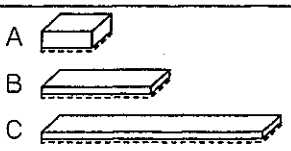
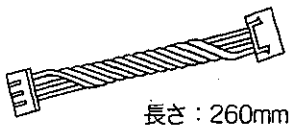
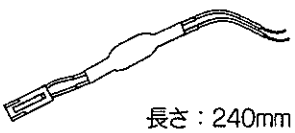
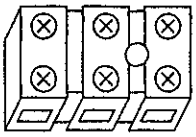
○良い例２（シールド線の１点アース）



シールド線のアースが2点以上ある場合、アースとシールド線間に回路が形成され、アース間のインピーダンス差により電位差が生じ、シールド線にノイズが侵入することが有ります。1点のみでアースした場合は、回路が形成されないためにノイズが侵入しません。

ノイズによる通信異常を防止するためにも、1点アースを守るようにお願いいたします。

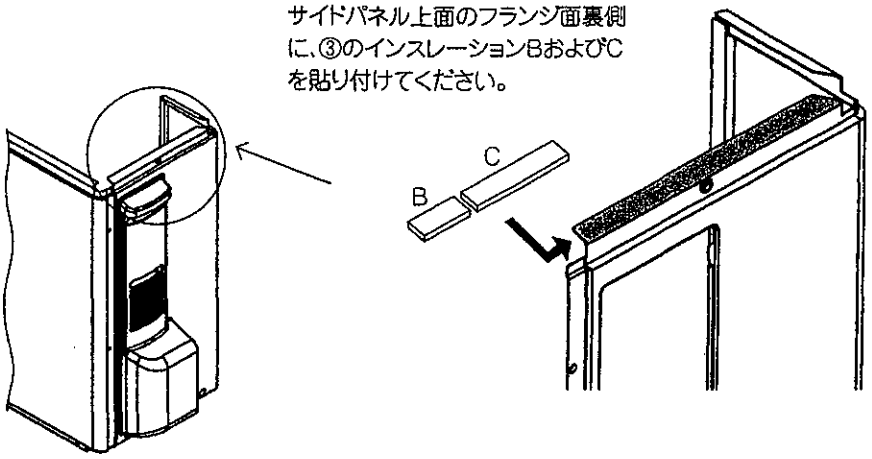
1. 部品一覧

No	品名	形状	数量	No	品名	形状	数量
①	M-NET基板 (絶縁シート、サポート付き)		1	⑦	端子盤用シール		1
②	M-NET基板取付板		1	⑧	リード線 信号用(5線)		1
③	インスレーションA, B, C		各1	⑨	リード線 電源用線		1
④	取付ネジ (M4×8)		1	⑩	リード線 M-NET		1
⑤	M-NET端子盤		1	⑪	アース線・ネジ(M4×8)		各1
⑥	取付ネジ (M3×20)		1	⑫	結束バンド		2

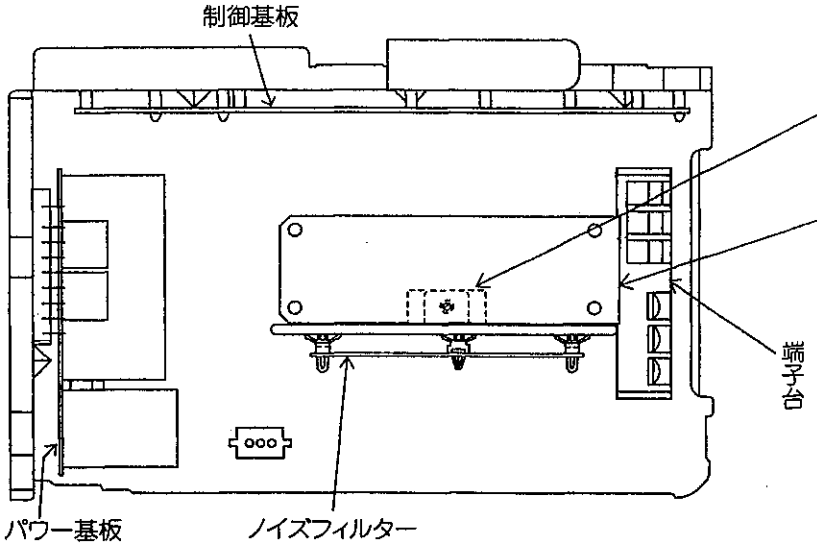
2. 作業手順

[1] PUZ-RP40～56(S)HAの場合

● M-NET基板に接続する配線を板金部品のエッジから保護するため、下記の作業前にパネル板金の端面へインスレーションを貼り付けてください。



(電気品箱上面から見る)

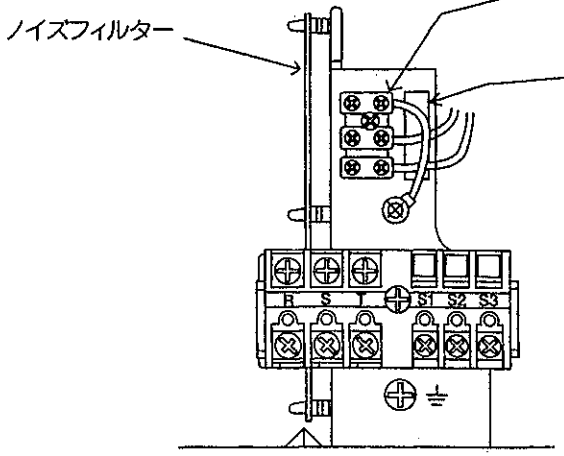


(1) ノイズフィルター取り付け板金裏のL曲げ部に③のインスレーションAを下から取り付けてください。

(2) ②の板の面取り部分がファン側(図の左側)に向くよう取り付け④のネジで取り付けてください。

(3) ②の板の4角に①の基板(絶縁シート、サポート付き)をロータリスイッチが端子台側になるよう取り付けてください。

(電気品箱端子台から見る)



(4) ⑤の端子盤を⑥のネジで取り付けてください。
※端子盤⑤には位置決めの丸ボスがありますので、丸ボスを板金の位置決め穴にあわせてください。

(5) 端子盤⑤の横に、⑦の端子盤用シールを貼り付けてください。この時、Sが上、Aが下になるようにしてください。

(6) ⑧のリード線で、M-NET接続用アダプタ基板のCN5と、室外制御基板のCNMNTを接続してください。

(7) ⑨のリード線で、M-NET接続用アダプタ基板のCNDと、室外制御基板のCNVMNTを接続してください。

(8) ⑩のリード線で、M-NET接続用アダプタ基板のCN2Mと、端子盤⑤のA、B端子と接続してください。極性はありません。
※端子盤のネジのゆるみがないよう確実に接続してください。

(9) (6)(7)(8)で接続したリード線を⑫の結束バンドで束ねてください。

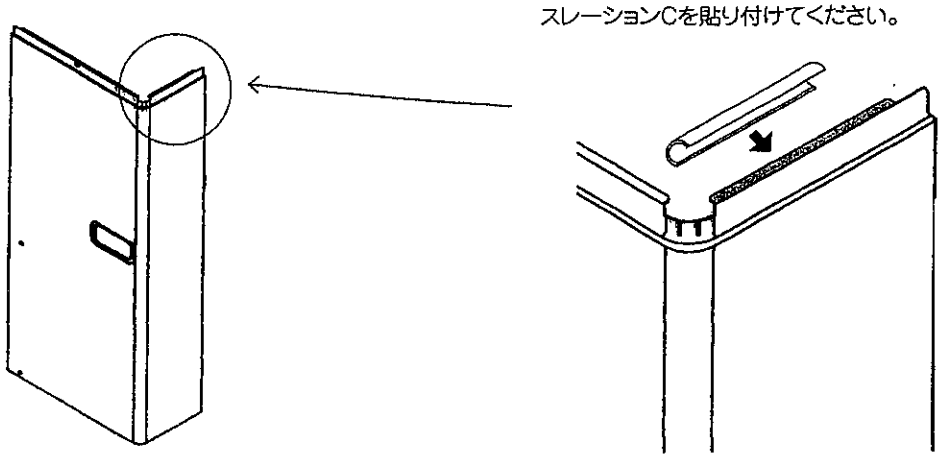
(注1) 必要に応じ⑪のアース線・ネジでM-NET伝送線のシールドをユニット本体に接続してください。

(注2) パネル類を取り付けるとき、リード線を挟み込まないよう十分注意してください。

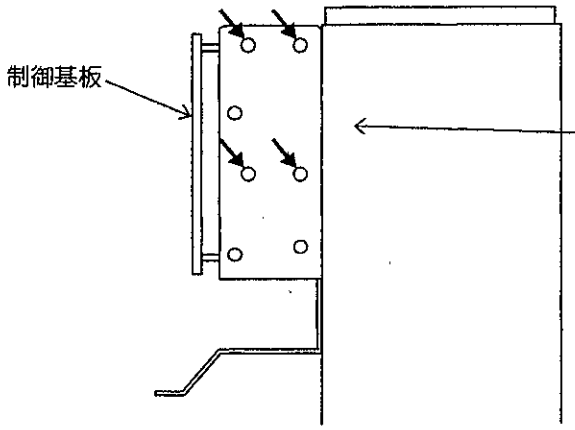
[2] PUZ-RP63～80(S)HA,PUZ-RP112～160HAの場合
※②のM-NET基板取付板、③のインスレーションAおよびB、④の取付ネジは使用しません。

● M-NET基板に接続する配線を板金部品のエッジから保護するため、下記の作業前にパネル板金の端面へインスレーションを貼り付けてください。

板金の端面を包み込むように、③のインスレーションCを貼り付けてください。



(電気品箱側面から見る)



(1) ①の基板(絶縁シート、サポート付き)を電気品箱側面に、ロータリースイッチが上になるよう取り付けてください(矢印部4カ所)。

(2) ⑤の端子盤を⑥のネジで取り付けてください。
※端子盤⑤には位置決めの丸ボスがありますので、丸ボスを板金の位置決め穴にあわせてください。

(3) 端子盤⑤の下に⑦の端子盤用シールを貼り付けてください。

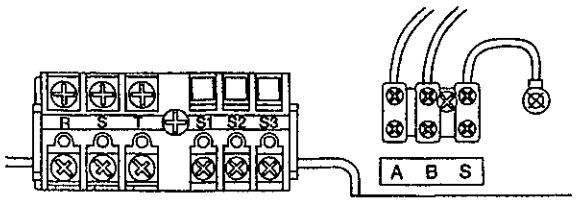
(4) ⑧のリード線で、M-NET接続用アダプタ基板のCN5と、室外制御基板のCNMNTを接続してください。

(5) ⑨のリード線で、M-NET接続用アダプタ基板のCNDと、室外制御基板のCNVMNTを接続してください。

(6) ⑩のリード線で、M-NET接続用アダプタ基板のCN2Mと、端子盤⑤のA、B端子と接続してください。極性はありません。
※端子盤のネジのゆるみがないよう確実に接続してください。

(7) (4)(5)(6)で接続したリード線を⑫の結束バンドで束ねてください。

(端子台部正面から見る)



(注1) 必要に応じ⑪のアース線・ネジでM-NET伝送線のシールドをユニット本体に接続してください。

(注2) パネル類を取り付けるとき、リード線を挟み込まないよう十分注意してください。